

分野別方針7 産業・商業

～新たな価値を創る都市を目指す～

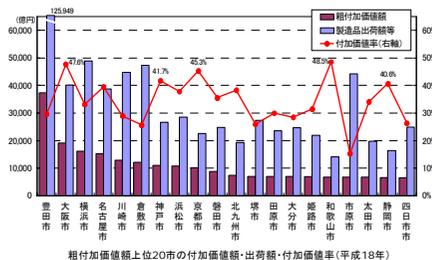
基本方針

京都のまちに脈々と受け継がれてきた匠の技、企業を持つ優れた技術力、知の集積拠点である大学など、これまで築き上げてきた「京都力」を活かし、「ものづくり」「ものがたりづくり」「ひとつづくり」が融合した、京都ならではの産業・商業振興を進める。また、市民の健康と豊かな食生活を維持するため、流通体制の整備を進める。

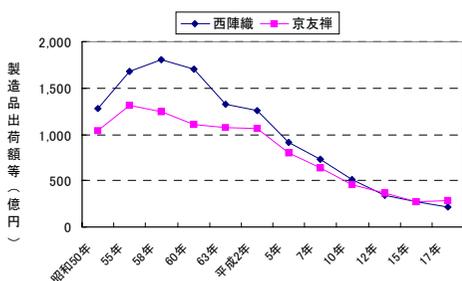
現状・課題

- 伝統産業から先端技術産業まで付加価値の高い全国有数の「ものづくり都市」として発展してきた。そして、全事業所の99%以上を占める中小企業は、京都経済発展の原動力として、大きな役割を担っている。
- しかし、市内製造業の事業所数は減少し続け、ライフスタイルの変化等による伝統産業製品の需要は低迷している。また、小売業・卸売業の年間商品販売額の伸び悩みなどの課題もみられる。
- こうした中、企業を持つ技術と学術研究機関の知を融合する産学公連携を進め、新たなイノベーションの創出を図ることや時代のニーズに応える伝統産業、更には、地域の特性に応じた商業の活性化が求められている。
- 今後も、山紫水明の自然、美しい町並、歴史や伝統を彩る数多くの文化・芸術など、京都のまちに息づいてきた「美」「感性」「知恵」を産業・商業振興に十分に生かし、付加価値を高めるための支援や環境づくりが必要である。
- また、生鮮食料品等の輸入拡大、市場外流通が増加する中、市民の「食の安全・安心」、「食育」への関心が高まり、中央卸売市場の整備や食文化の発信等、市場機能の強化が必要である。
- 京都市の総人口は、平成17年(147万)から緩やかな減少過程に入り、社会を支える者が減少すると予想されている。今後、生産性の低下を招き、経済が停滞する恐れがあることから、人口減少社会に的確に対応した雇用対策が求められている。

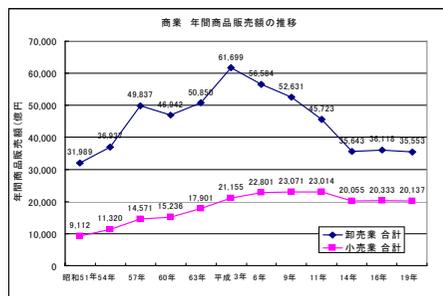
◆付加価値の高いものづくり
(全国で粗付加価値額9位)



◆厳しい経営が続く伝統産業



◆伸び悩む商業



政策の目標

<みんなで目指す10年後の姿>

- 伝統産業から最新の技術をリードする先端産業までの幅広い業種に、大企業から中小企業までの様々な規模の企業が立地する重層的な産業構造をもち、それぞれの企業が相互に刺激を与え、連携し、発展するまちとなっている。
- 企業を持つ優れた技術力や匠の技と大学の知を駆使し、環境、健康、食など様々な分野において、付加価値の高いものづくり・サービスなど新たなイノベーションで未来を切り拓くまちとなっている。
- 1200年の悠久の歴史と伝統文化、豊かな自然の中で息づいてきた京都の「美」や「感性」を生かし、クリエイティブな産業(マンガ・アニメ、ゲーム、映画などのコンテンツ、デザイン等)を生み出すまちとなっている。
- 長い歴史の中で先人たちが築き上げてきた伝統産業を受継ぎ、発展させ、日本の伝統文化を世界に発信するまちとなっている。
- 若者から高齢者まで幅広い年齢層の市民・観光客が安心して買物を楽しむことができ、意欲をもつ商業者が才覚を発揮して元気に頑張れる魅力あふれるまちとなっている。
- 人口減少社会において、より多くの人が社会を支えるという観点から、新たな雇用の創出や雇用のミスマッチを解消することで、若者、女性、高齢者、障害者を含め、働くことを希望するすべての人が就業し、その意欲と能力を最大限発揮できるまちとなっている。

<政策指標>

指標	現況値	目標値
1 製造品出荷額等に占める粗付加価値の割合(付加価値率)	42.7% (H19)	—※
2 全国に占める年間商品販売額の割合	1.02% (H19)	—※
3 15歳以上人口に占める有業者(仕事が主な者)の割合	45.3% (H19)	—※

※ 目標値は、新・京都市産業振興ビジョン(仮称)策定委員会の議論も踏まえ、第2次案までに設定予定

市民と行政の役割分担と共汗

<共汗の方向性>

